令和元年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金

締切回　令和元年度 第5次　|　業　種　畳製造業

事業計画名

機械装置導入による生産性向上と顧客ニーズに応じた畳提案事業

有限会社 中荘製畳

畳床切断・畳表張付を行う「表張・框縫付自動片框裁断機」

畳縁縫付を行う「全自動平刺・返縫機」

一人での高効率な作業が可能になった

両設備の工程を経て完成した縁無畳

イ草農家に出向いて収穫作業にも参加する

2018年に開設したショールーム

中荘 浩次 取締役社長

1 profile 企業情報

会社名	有限会社 中荘製畳
代表者	取締役社長　中荘 浩次
所在地	〒872-0504 大分県宇佐市安心院町荘586番地 TEL.0120-44-0789　FAX.0978-44-2101 URL　http://www.nakajyo-tatami.jp
事業内容	畳・ふすま・障子・網戸の製造・販売・施工
資本金	300万円
設立	1992年（創業1957年）
社員数	2名

2 background 背景・経緯

伝統的な畳づくりを守り続け、高品質な商品を提供

近年はライフスタイルの変化に伴う和室の減少などによって、畳の需要も減少傾向にあるが、その一方で種類は多様化を続けている。フローリング材と同じ厚さで集合住宅などにも設置がしやすい薄畳や、リビングの畳スペースなどで用いる縁無畳の割合が増えつつある他、安価な中国産品が急増。畳製作会社は対応を迫られている。

このような畳業界において、宇佐市安心院で親子2代にわたり営業を続けている有限会社中荘製畳は、非常に高品質な畳を手がける会社として知られている。同社の強みは、畳の芯材となる畳床に安心院・院内産のわらを、畳床に張り付ける畳表に熊本県八代産のイ草を使用した、伝統的な畳づくりを守り続けている点である。わらの畳床はシックハウス症候群の原因となる化学物質を吸着することから、子どもがいる家庭で好評。また、中国産と比較して均一性や耐久性に優れる国産のイ草については、中荘浩次取締役社長が自ら熊本県八代のイ草農家に出向き、収穫まで手伝うというこだわりを発揮している。

2018年には、本社工場内にショールームを開設。国産畳が持つ快適性の体験や製作工程の見学などを可能にしたことで、他社との差別化を図ることに成功している。

3 details 事業内容

薄畳・縁無畳の製作に対応するため新設備を導入

伝統的な畳を強みとしている同社は、一方で畳の多様化への対応が遅れているという課題を抱いていた。前述した業界トレンドの変化により、近年は薄畳や縁無畳を受注する機会が増加。しかし従前の設備ではそれら特殊な畳の製作に対応しておらず、高品質な畳づくりに支障をきたしていたのである。同社は「高い技術」を謳う会社であることから、この状況を傍観していいはずもなく、打開策を検討。本事業により、伝統的な畳だけでなく薄畳や縁無畳の製作にも対応する「表張・框縫付自動片框裁断機」「全自動平刺・返縫機」を導入した。

両設備はいわば、畳製作の前工程と後工程をそれぞれ担うものである。前工程を担う「表張・框縫付自動片框裁断機」では、畳床の切断と畳表の張り付けまでを実施。その後は後工程を担う「全自動平刺・返縫機」に移動し、畳表が張られた畳に畳縁の縫い付けを行う。これら一連の流れはほぼ自動制御が可能だが、素材の状態の違いなどによって最適な力加減は異なるため、同社ではあえて操作を「半自動」に設定。人の技術が介在する余地を残すことで、より高品質な畳づくりを可能にした。

4 achievement 成　果

作業の省人化により、業務の幅が拡大

導入のメリットとしてはまず、対応が難しかった薄畳や縁無畳の製作を容易にしたことが挙げられる。また、従前の設備を操作する際は前工程と後工程にそれぞれ一人ずつ、計二人のスタッフを置いておく必要があったのだが、今回導入した設備では、一人で両工程に対応することが可能となった。すなわち、片方が畳を製作している間に、もう片方は別の作業に専念できるようになったのである。

同社は10年ほど前から畳以外にふすまや障子、網戸なども手がけているが、中荘浩次取締役社長を含めて2名体制という状況から、従来はどうしても畳の製作に比重を置かざるを得なかった。しかし、もう一人に任せられる環境が整ったことで他商品への注力が可能に。また、客先での打ち合わせや営業活動にも多くの時間を割けるようになり、顧客とのさらなる関係強化や同社の存在感向上にもつながっている。

5 future 展　望

需要の高い商品を見極め、ラインナップの拡充を

少子化や過疎化が進む安心院では、多くの新畳を必要とする新築住宅の着工減少が続いていくものと見込まれる。そういった状況においても、本事業によって同社の可能性は大きく広がった。中荘浩次取締役社長は今後、顧客ニーズを把握しながら需要の高い商品を見極めた上で、導入した2設備を活用してラインナップの拡充を図りたいとしている。

加えて、営業エリアの拡大や人手不足の解消にも努めたいと語る中荘浩次取締役社長。生まれ育った故郷・安心院を拠点に、さらなる飛躍を期待したい。

Point

業界トレンドの変化に対応し、顧客ニーズが高い商品の量産を実現。畳製作以外の活動に注力することも可能に。